

氏名	M・A
専攻	農学国際専攻
学年	修士課程1年
渡航先	フィリピン
期間	2018/08/22～2018/09/10
内容	<p>今回の調査を通じて、題目にある研究テーマについての理解が大きく深まった。また実際に調査研究データをもとにした実証分析を通じて、地主を信頼する小作人の方が経済的に優位だと考えられる自作農になる選択肢を取らなくなることが確かに示された。これにより過去数十年フィリピン政府により実施された農地改革事業が進まない理由の一部が解明され、今後のフィリピンの発展に繋がることが期待される。個人としては、調査研究をやる際の現地協力者と情報交換をすることの重要性を強く実感した。彼らは現地の情勢を私たちより十分に理解している。彼らとの議論を通じて、用意していた調査票の中で現地の実情にそぐわない部分やバイアスが生じる部分を修正したことは調査において非常に助けられた。今回の調査を通じて得た経験は、今後実施する修士研究においてどうモデルを構築するか、現地計画をどう立てるべきか、質問票をどう作るか、といった際に大いに役立つことが期待される。</p>

